

60. 婦人服の袖に関する研究（第1報）

Over blouse 長袖の機能性について

鹿児島県立短大 茅野 艶子

時吉マリ子

1. 衣服における袖の構成はその機能性，外観，縫製等について特に考慮すべき問題点が多い。今回は婦人用 Over blouse のうち，普通袖，French sleeve, Raglan sleeve, まち入り French sleeve について着用実験を行い，袖の種類による機能性，外観の相違について検討したので報告する。

2. (1) 実験材料及び型 白生地 Broad cloth を使用し, Shirt collar つきの Over blouse を製作した。

(2) 被実験者 クラスで中位の体格の女子学生10名を選び着用実験を行った。

(3) 実験方法 普通袖として袖山の高さ $A \cdot H/6$ でカフスつきのもの, $A \cdot H/4$ でカフスつきのものでカフスなしのもの, $A \cdot H/4 + 3\text{cm}$ でカフスなしのもの French sleeve でまちなしのものでまち入りのもの Raglan sleeve のもの合計8点の Over blouse をそれぞれ着用させ, 右上肢の運動による裾線と袖口のつり上り寸法を測定した。

3. (1) 普通袖の場合, 袖山の高さが高くなる程裾線, 袖口ともにつり上りが多くなる。 $A \cdot H/4$ の場合カフスなしのものが裾線のつり上り寸法は小さく, 袖口は大であった。

(2) French sleeve まち入りで袖山線の傾斜角度40度のもののつり上り寸法が最も大であった。